

古典は何を勉強するの？ 第五話



こんにちは。皆さんは先日の満月を見ましたか？たくさんの花が咲くことから、五月の満月のことを別名「フラワームーン」と呼ぶそうです。

今日は『奥の細道』から、月についてお話します。

月は有り明けにて光をさまれるものから、富士の峰かすかに見えて、上野・谷中の花の梢またいつかはと心細し。

（『奥の細道』旅立ち）

【現代語訳】

月は有り明けの月で光はなくなっているので、富士の峰がかすかにしか見えず、上野や谷中の桜の梢を再びいつ見られるのかと思うと心細い。

皆さんは、右の一文から、芭蕉が出発した時間を想像できますか？昔、日本の暦は、月の満ち欠けを基準にした太陰暦でした。そのため、文中の月の呼び名一つで、芭蕉が江戸を出たのはその月の何日頃か、時間帯や月の形までを推測することができます。

例えば、本文に出てくる「有り明けの月」とは、明け方、太陽が昇る頃まで白く空に残っている月のことを言います。この月が見られるのはその月の下旬で、形はしだいに細くなります。このように、どのような形の月が空のどの辺りにあるかで、芭蕉の旅の様子を想像することができます。時代が移り変わっても、芭蕉と同じ月を今も眺めていると思うと、感慨深いですね。たまには、スマホから顔を上げて、夜空を見上げてみませんか？

さて、全五話にわたって「古典は何を勉強するの？」をテーマに一緒に考えてきました。「古典の授業は文法が難しくて」はよくある感想ですが、現代文で学ぶ以上に「なるほど！」と実感したり、人生のヒントになることも見つかったりするのではないのでしょうか。「古典って魅力的！」と少しでも興味をもってもらえると嬉しいです。



終わり